

城端線・氷見線沿線地域公共交通網形成計画（案）に対する意見の概要と考え方

パブリックコメント実施期間 平成29年3月1日～3月14日

寄せられたご意見 5名 14項目

No	意見の概要	意見の主旨	計画への取り込みの考え方
1	北陸新幹線（臨時かがやき）と下り城端線との接続性の向上を図ってはどうか。	接続性の向上	城端線のダイヤは、「あいの風とやま鉄道」及び「氷見線」との接続、単線区間における折り返し運行、限られた車両数による運用、新幹線との接続など、一定の条件下で設定されています。新幹線と城端線の乗り継ぎ利便性については取組み事業6で検討を行ってまいります。
2	乗継ぎ利便性向上のため、城端線増便試行の更なる増便も前向きに検討し、実施を望む。	増便の検討 接続性の向上	増便試行は引き続き1日4往復8便で運行します。取組み事業2に掲げるとおり、日常利用や観光利用などの状況を踏まえ、効果の検証を行いながら適切な運行本数の検討を行ってまいります。
3	城端線・氷見線、あいの風とやま鉄道線、北陸新幹線全列車の接続について8分～10分前後で接続するよう検討してはどうか。	接続性の向上	いただいたご意見は、本計画の全体方針「地域に利用される交通ネットワークの形成」を目指す取組みの参考にさせていただきます。
4	駅のバリアフリー化（ホームのかさ上げ・スロープ、駐車スペース）の整備について、検討して欲しい。	ホスピタリティの向上	本計画の取組み事業12において、各自治体において駅施設の整備、駅周辺整備に取り組みます。利用状況や地域のまちづくり方針を踏まえて、検討を行ってまいります。

No	意見の概要	意見の主旨	計画への取り込みの考え方
5	交通事業者間の情報交換・運行連携に係る目標を設定してはどうか。	ホスピタリティの向上	交通事業者間の情報交換・運行連携については、公共交通の利用促進を図る上で重要な視点であり、本計画では取組み事業5と取組み事業6で鉄軌道の接続性の検討、取組み事業17では公共交通案内の充実等の取組みを行っていきます。
6	遅延情報等の利用者への適時適切な提供をしてはどうか。	ホスピタリティの向上	運行遅延等に関する情報は、各交通事業者において適切な情報の提供に取り組んでいるところであり、あいの風とやま鉄道においては、4月から新旅客案内システムにより運行遅延等に関する情報提供サービスが開始されるなど、更なる情報提供の充実も図られています。いただいたご意見を参考に、日常利用者の利便性向上に向け、引き続き情報提供の充実に取り組んでいきます。
7	車両更新について検討して欲しい。県や市が、JRに車両購入費の貸付け、金利負担等をしている事例がある。また昨年、JR東日本で交流型蓄電池車両が導入されており、導入検討してはどうか。	ホスピタリティの向上	いただいたご意見を情報共有し、本計画の事業1では利用向上につながる車両の検討を行う中で事例の収集や研究等にも取り組んでいきます。
8	城端線・氷見線の観光列車と、あいの風とやま鉄道で導入予定の観光列車が連携し、(できれば七尾線も含め)地域の魅力を発信するツールとしてうまく活用すべき。早い段階から連携し、PRを。	沿線の観光の魅力発信	取組み事業7において、交通事業者各社とも連携し、観光列車を活用し地域の魅力を発信していきます。広域エリアにおける観光列車の連携についても勉強していきたくと考えています。
9	観光列車「べるもんだ」について、車両増とプレゼント抽選会など、イベントサービスを提供してはどうか。	沿線の観光の魅力発信	取組み事業7において、鉄道事業者、沿線自治体が連携し、ベル・モンターニュ・エ・メール号での乗客サービスの提供を実施いたします。いただいたご意見を参考に、多くの方に観光列車をご利用いただき、車輛増に繋がるよう地域の魅力を発信するイベント等の検討を行っていきます。

No	意見の概要	意見の主旨	計画への取り込みの考え方
10	交通網を整備し、車での移動以上の利便性を整備しないと高齢化社会には対応できないのでは。	公共交通によるまちづくり	人口減少、少子高齢化が進む中で、都市機能の配置などまちづくりと連携した視点で交通ネットワークを構築し、自動車依存からの脱却を図り、公共交通を中心としたライフスタイルの定着を目指していきます。
11	利用者ニーズの把握や、住民側へのマイレール意識の醸成、利用機会のきっかけづくりに向けて、JR城端線・氷見線で沿線住民を対象とした意見交換会を開催してはどうか。	マイレール意識の醸成、啓蒙・啓発	現在、城端線・氷見線の利用ニーズ等については、当協議会で実施しているアンケート調査（アンケート用紙の郵送配付）のほか、各市へのお問合せ、メール等によりご意見をお受けしており、各交通事業者とも共有し、沿線住民の皆様からの意見集約・共有を図っているところです。今後、利用者ニーズの把握の方法や沿線住民のマイレール意識の醸成については、取組み事業19～23の各施策に取り組む中で検討していきます。
12	鉄道を考えるきっかけづくりとして、子どもや学生を対象に鉄道標語や絵などの作品募集を行ってはどうか。	マイレール意識の醸成、啓蒙・啓発	利用者を始め、沿線住民のマイレール意識の醸成については、取組み事業19～23の各施策に取り組む中で検討していきます。いただいたご意見も踏まえ、具体的な事業内容について検討していきます。
13	バス路線については、城端線及び氷見線と重複しないようにする必要があるのでは。	バスとの連携	利用者ニーズに合わせたバスの運行ルート、ダイヤ等については、取組み事業8の中で検討していきます。
14	東京方面へ行くのに、高岡駅からあいの風を使い富山駅からかがやきを利用した方が時間的に早く、また安価に移動できる。	その他	〔各交通事業者の経営方針、構造等に係るものであり、計画に基づく取組みや協議会事業の対象外〕